明るく健康な生徒　正しい判断力をもち主体的に学び行動する生徒　豊かな情操をもち品位ある生徒

石神井中だより

練馬区立石神井中学校
校長　櫻井　弘
令和５年１０月４日
第６号

「つくる　思いを馳せる」

副校長　美濃谷ひろみ

中秋の名月の日の給食はお月見献立。中でもお月見団子汁は、かぼちゃで黄色に色付けされた白玉団子の美しさがお月様を連想させました。野菜たっぷりのやさしい味の汁の中に、白玉団子がたくさん入っていました。調理員さんたちが一つ一つ手のひらで丸くする作業は大変だろうなあ、700 食分作るとなると一人何個お団子を作るのだろう？食べる人たちの笑顔を思い浮かべながら作ってくれているのだろうなあと、考えながらいただきました。実は給食室の調理員さんたちのうち３人で、白玉団子を 3000 個くらい作っていたそうです。一人 1000 個!!朝から根気強く丁寧に作ってくれたおかけで季節を感じ、夜のお月様のことも思い浮かべることができました。その晩の月は美しく幻想的でした。家路を急ぐ多くの人たちも足を止めて写真におさめていました。私も月を見ながら給食のお団子汁を思い出し、学校での一日を思い浮かべました。

今年、夏前に友人からもらったひまわりの種を、Ｉ組のみなさんにお願いして東門の花壇に植えてもらいました。たった８ｍｍ程の小さな種が大きく育ち、夏休み中に大きな花を咲かせました。現在は次の代となる種を採るため、準備をしているところです。下記手順の１の段階です。

【ひまわりの種の採取手順】

1.花首が下を向いてくるのを待つ
2.中心部が枯れて黒く固くなったら花首を切り取る
3.天日干しする
4.完全に乾燥したら種を取り出す
5.袋に入れて保存する

「ど根性ひまわり」と呼ばれるこのひまわりは、震災の記憶を忘れないようにしようとする活動の種です。2011 年（平成 23 年）３月の東日本大震災のあと、津波の被害を受けた宮城県石巻市で瓦礫の中から１本のひまわりが芽を出しました。塩害にも負けずにたくましく育ち、その夏、大きな花を咲かせました。その子孫の種を植える活動が全国各地で広がっているのです。石神井中に咲いたひまわりの花から、種を譲ってくれた友人を想い、被災された方々に思いを馳せ、防災の大切さを考え、改めて日々のありがたさを感じることができました。

合唱コンクールの練習が始まると、いつも震災からの復興を願う合唱曲「群青」が心に浮かびます。「群青」は東日本大震災で大きな被害を受けた、福島県南相馬市立小高（おだか）中学校の生徒達と小田美樹先生によって作られました。小高中学校の校区は震災による原発事故のため、多くの住民が北海道から九州まで、散り散りに避難しなければなりませんでした。学校に残った生徒達が大きな日本地図に仲間の顔写真を貼り付けながら、「遠いね、でもこの地図の上の空はつながっているね」など、口々につぶやき出したそうです。その生徒達の声をつなぎ合わせて歌詞が出来上がり、それに曲をつけて出来上がったのが「群青」です。「一緒に過ごした仲間達との突然の別れがあって、今は会えない。けれど、どこにいてもこの空はつながっているね」という、自分の知らない遠くの町でがんばっている友への想いに溢れています。いつも見ていた景色は友と見るのが当たり前だったけれど、ここにあの友はいない。「当たり前」がどんなに幸せなことだったのか。心に迫ってくる曲です。

合唱コンクールのクラス練習が始まりました。歌とともに思いを馳せます。日常をこうして石神井中の仲間と過ごす日々、そして共に合唱できる喜び、共に作り上げる充実感、中学生として成長する姿を、いつも温かく見守ってくださる保護者の方々に。あなたは何を感じ、何を考え、誰に何を伝えるのでしょうか。心を音楽に乗せて、想いあう時を共に過ごしたいと思います。